

創世記16章2節 「『神を助ける』という過ち」

1A 間違った責任感

2A 全き方

1B 永遠の方

2B 主権者

3B 全能者

3A 神の御霊の働き

1B 信仰による御霊

2B 従順による実現

3B 留まる責任

4A 肉による完成

1B 忍耐しない努力

2B 形だけの実現

3B 露わにされる肉

5A 十字架の死

1B 死に絶える肉

2B 残る御霊の実

本文

創世記 16 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びが、15 章まで来ました。今日の午後礼拝で、16-17 章を一節ずつ見ていきますが、今朝は、16 章 2 節に注目します。「サライはアブラムに言った。『ご覧ください。主は私が子を産めないようにしておられます。どうぞ、私の女奴隷のところにお入りください。おそらく、彼女によって、私は子を得られるでしょう。』アブラムはサライの言うことを聞き入れた。」

1A 間違った責任感

前回の私たちの学びでは、15 章で、主がアブラムに、子孫が与えられる約束を見ました。主は、あなたへの報いは、非常に大きいと言われるのですが、彼には跡取りとなる息子が与えられていません。それをアブラムが訴えました。自分の家にいるしもべが、跡取りになるのでしょうかと彼は言いました。そうしたら、主は、「15:4 あなた自身から生まれ出てくる者が、あなたの跡を継がなければいけません。」と言われるのです。ら、主は、彼を外に出しました。夜空に無数の星が輝いています。主が、「15:5 あなたの子孫は、このようになる」と言われました。それを彼が信じて、その信仰を神は義とみなされました。

アブラム自身から出てくる子です。けれども、妻サライは不妊です。主がこの約束を与えてから、10 年が経っていました。主がアブラムから生まれ出る子が、跡を受け継ぐと言われているのに、サラは子を産めません。それで、サラは、「どうぞ、私の女奴隷のところにお入りください。おそらく、彼女によって、私は子を得られるでしょう。」と言ったのです。女奴隷は、エジプト人ハガルのことですが、彼らがエジプトに下った時に得た奴隷で、サラのものになっています。

今でいうと、とんでもないことに見えますが、当時の感覚では、ちょうど「体外受精」のようなものです。そして代理母がいて、産めない妻の代わりに出産するというものです。もちろん当時、そんな技術はないですから、夫が自分の女奴隷を通して、その生まれてくる子が自分の子とすることが出来ます。

ここでの問題は、ですから、道徳的なことではありません。そうではなく、主が、アブラムから子が生まれると約束され、自分たちがかなえないといけなかったと考えたことです。神が約束されたのに、自分たちが助けないとそれが実現しないと考えたのです。これが大きな間違いです。

私たちは、主が行われていることについて、自分自身がどうにかしないといけないと、変な責任感を抱きます。牧者チャック・スミスが、ものすごく焦ったという証しを思い出します。人々があまりにもたくさん教会に集まって来るので、新しいところを見つける必要がありました。そうしたら、大きな敷地が見つかりました。今もある、カルバリーチャペル・コスタメサのところでした。自分たちには、到底支払えない金額です。けれども、そこを購入する流れになりました。彼は、その広い敷地を見て、焦りました。どうしよう？と。すると、主が語られました。「だれが、この問題を引き起こしたのか？」チャックは答えました。「主よ、あなたです。」主は言われました、「では、なぜあなたが心配するのか？」そうです、主が人をこのようにたくさん連れて来られるのですから、なぜ、その問題を自分で解決しなければいけないと思ったのでしょうか？こういった問いです。

世の中には、「天は、自ら助く者を助く」という言葉があります。これは、聖書に出てくる教えではありません。自分で自分を助ける人を、神が助けるなんて教えていません。主ご自身が我が助けであり、その助け主に信頼することが、私たちの務めです。

2A 全き方

神は、私たちの助けを必要としておられません。私たちのうちで働きたいと願われておられますが、私たちが何か貢献して、それで神のわざが完成するものではありません。神は、お独りでご自分の計画を、すべて遂行することがおできになるのです。私たちは、ただ神のご計画が実行される時に、その現場にいる者ではありますが、私たちを通して事を行われるのは神なのです。

私は若い時に、間違っ、ある異端の教会に知らずに行ってしまいました。そこで教えられたの

ものの一つに、予定論がありました。それは、神の責任は 95%で、人間の責任は 5%だということです。どこからその数字、割合が出てくるのか、かなり胡散臭いです。けれども、私はそれを聞いた後、恐ろしい思いをしました。その 5%の人間の働きで神の働きが完成すると思っているかもしれませんが、いいえ、100%に到達しないといけないのです。神は完全な方だからです。

神は 100%責任を持っておられ、人はそれに従うだけなのです。その従うことにおいて人に、100%責任があると言えるでしょう。神は働かれるのに 100%の責任があり、人はその 100%の働き、みわざに、100%従わせるという責任があります。つまり、その完全な方にすべてを明け渡し自分によって、完全な方が、完全な働きを行われます。

後で、17 章で主は、アブラムに「**全き者であれ(1 節)**」と命じられています。それは、自分がハガルによってイシュマエルを生み、無事に、神の約束で不足な部分を、自分が果たしたと思い込んでいたからです。彼のその働き、貢献は無にされます。イシュマエルは、約束の実現のために 1%も貢献していなかったのです。なぜなら、神は不妊の妻サライによって、子を与える計画しておられたからです。神は、初めから、ご自分のすることをお決めになっていました。

1B 永遠の方

神は、どのような形で完全な方なのでしょう？まず、永遠であるということです。初めから、終わりまですべて知っておられます。「イザ 41:4 だれが、最初から代々の人々に呼びかけてこれらをなし、これらを行ったのか。【主】であるわたしだ。わたしは初めであり、また終わりとともにある。わたしがそれだ。」初めに神が、誰かを選ばれる時、神は、終わりまで責任をもって事を行われるのです。「ピリ 1:6 あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています。」実に、神にとって、初めから終わりの完成の姿を見ておられるのです。「ロマ 8:30 神は、あらかじめ定めた人たちをさらに召し、召した人たちをさらに義と認め、義と認めた人たちにはさらに栄光をお与えになりました。」

2B 主権者

ですから、神は永遠の方で、初めから終わりまでを支配する、主権者です。神は、ご自分の計画を、ご自分の力と知恵で、すべて行われるのです。「ロマ 11:33-36 ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう。34 「だれが主の心を知っているのですか。だれが主の助言者になったのですか。35 だれがまず主に与え、主から報いを受けるのですか。」36 すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るのです。この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。」自分のほうで、神に助言する、助ける、貢献するなど、本当に愚かなことだと分かるでしょう。主が、ご自分のことを、すべてご自分で行われるのです。

3B 全能者

そして神は、全能者です。ご自分の計画を実行する力を持っています。どんなことでも、おできになります。サラは、後に天幕で、来年の今ごろ、彼女に男の子が生まれていると聞きます。彼女は、心の中で笑いました。しかし、主が「なぜ、サラは笑うのか」と言われます。そして、「18:14 **主にとって不可能なことがあるだろうか**」なのです。

3A 神の御霊の働き

1B 信仰による御霊

ですから、神が私たちを選び、召されて、ご自分のみわざを行われると決める時に、私たちに必要な応答は、信仰による従順なのです。まず、主を信頼し、この方の約束がその通りになると信じて、受け入れるのです。そして、忍耐する必要がありますね。主を待ち望み、主が行われることを忍耐して、信じるのです。

その時に大事なものは、信じている者に御霊が与えられていることです。「ガラ 3:2 **これだけは、あなたがたに聞いておきたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。**」私たちが信じて従う時に、御霊が与えられます。神ご自身が、キリストによって、御霊を私たちのうちに住まわせるのです。

そのことによって、御霊が私たちを導いてくださいます。その導きに従うことにより、御霊が私たちから実を結ばせてくださるのです。「ガラ 5:22-23 **しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。**」多くの人が、どのようにしたら御霊の導きが分かるのですかと尋ねます。それは、神の言われていることを信じ、それに従うことなのです。そうすると、御霊が働かれ、私たちを力づけ、導かれます。もう自分自身が何かをしているのではなく、自分によって神が働かれるのです。

2B 従順による実現

そうやって、神に従順になることによって、神の救いのご計画が自分の内に完成されます。「ピリ 2:12-13 **こういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であつたように、私がともにいるときだけでなく、私がいらない今はなおさら従順になり、恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。13 神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。**」主が志に働いてくださいます。そして、私たちは動いているのですが、その動きに、主の御手があるのです。そして、主の救いが達成されるのです。

3B 留まる責任

ですから、私たちの務めは、主の働きに何かを付け加えるのではなく、主のうちに留まることです。「ヨハ 15:5 **わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその**

人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。」主に、そのことばに留まることによって、多くの実を結びます。しかし、主から離れては、何一つすることができないのです。

4A 肉による完成

1B 忍耐しない努力

けれども、私たちはどうしても、主が始められたことに、何か付け足したいと願うのです。主ご自身が完成されるのに、自分の努力や願いで完成させようとしてしまうのです。ガラテヤの人たちにパウロが叱責しています。「ガラ 3:3 あなたがたはそんなにも愚かなのですか。御霊によって始まったあなたがたが、今、肉によって完成されるというのですか。」みことばを聞いて、信じて、それで御霊が与えられました。ところが、肉の努力によって、その御霊の働き、神の救いのわざを完成させようとしているのです。

私たちが信じて、忍耐して、その信仰を働かせる時に、神は時が来れば、事を行ってくださいます。ところが、アブラムとサライのようにそれが待てないのです。それで、自分で何か形になるものを作り上げたいと願ってしまいます。

2B 形だけの実現

そうすると、形だけはすぐに仕上がります。アブラムは、ハガルによってイシュマエルが生まれました。これが、肉によって事を行うことの特徴です。主を待ち、それで主がなされることを見るのではなく、自分でそれっぽいことを神に代わってやってしまうのです。そして、それっぽいものができあがるのです。

3B 露わにされる肉

しかし、肉による行いは、その実がばれます。肉は肉であり、そこには人間の罪が宿っているのです。アブラムに、イシュマエルが与えられてから、お家騒動が始まりました。ハガルが思い上がったのです。女奴隷なのに、子を産まない女主人サライに偉そうにふるまいました。それで、サライが夫アブラムに、きつく言うのです。「16:5 私に対するこの横暴なふるまいは、あなたの上に降りかかればよいのです。この私が自分の女奴隷をあなたの懷に与えたのに、彼女は自分が身ごもったのを知って、私を軽く見るようになりました。【主】が、私とあなたの間をおさばきになりますように。」夫婦仲が悪くなりました。それでアブラムは、リーダーシップを取らず、丸投げしたのです。「あなたの好きなようにしなさい」と。すると彼女はハガルを苦しめました。

ガラテヤ人への手紙が、その問題を抱えていました。肉によって、異邦人である彼らが、まるでユダヤ人であるかのようにふるまったのです。割礼を受け、安息日や祭りなど、数々の教えを行い始めました。形は整っているのです。けれども、化けの皮はすぐにはがれています。「ガラ 5:15 気

をつけなさい。互いに、かみつки合ったり、食い合ったりしているなら、互いの間で滅ぼされてしまいます。」肉の力で体裁を整えている中で、心にある肉の思いがどんどん出て来ているのです。自分の正しさにより頼んでいるので、互いに批判ではなく、それ以上で、かみつき合ったり、食い合ったりしているとのことです。互いに間で滅ぼされてしまいます。

イエスは、偽預言者かどうかは、「**実によって見分けることになります(マタイ 7:16)**」と言われました。その教えではなく、実なのです。教えは、一見、もっともらしく見えるのです。けれども、実体はどうなのでしょうか？まるで、その教えを信じているようには見えません。そう、かたちだけ整えたのだけで、繕っただけで、肉に対しては何の力も発揮していないのです。だから、肉の思いがどんどん出てきてしまいます。

5A 十字架の死

1B 死に絶える肉

そこで、アブラムの生涯を先取りしてみます。彼の名はアブラハムに変えられます。サライもサラになります。アブラハムが百歳の時に、イサクが生まれました。そして、イシュマエルはイサクをからかったので、ハガルと共に去っていきます。そして、イサクが大きくなってから、彼を全焼のいけにえとして献げなさいと、主が命じられます。そこで主が、イサクについて言われた言葉がこれです。「**22:2 あなたの子、あなたが愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。**」イサクを、「ひとり子」と言われたのです。イシュマエルのことを数に入れていないのです。主は、アブラハムの肉に努力を、何一つ認めていませんでした。

これが、肉の努力です。主の前では無に等しくなります。そして、主は、その憐れみのゆえに、自分自身でやったことは、死に絶えるようにされるのです。これを、「十字架に付ける」と言います。「**ガラ 5:24 キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、情欲や欲望とともに十字架につけたのです。**」自分の肉は、もっとよくしていくのではないです。改善するのではないのです。十字架につけて、殺してしまうのです。もう死んだ者とみなしていくのです。

2B 残る御霊の実

そうすると、自分のうちにおられるキリストが、生きて働いてくださいます。そして、御霊による実を結ばせてくださいます。そして、その実は見かけのものではありません。いつまでも残る実なのです。「**ヨハ 15:16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになる・・・**」実が残るのです。イサクが生まれ、イサクからヤコブが生まれ、そしてイスラエルの十二部族が生まれました。そしてイスラエルの国民が出てくるのです。これが御霊の実です。今に至るまでイスラエル人はいます。

これが大きな違いです。自分で何とかしなければいけないという焦りはありませんか？必ず主も主に語られていないのに、自分で勝手に責任感を抱いていることではないですか？それよりも、ただ主の言われていること、約束を信じ切っていますか？そして、御霊が与えられていることを確信していますか？その導きに従っていますか？自分がしていることではなく、主を信じて、聞き従っていることにしたがつて、主は私たちに報いを与えられます。